

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 憩いの園)

事業所番号	0672200177		
法人名	社会福祉法人悠愛会		
事業所名	グループホームメルヘン		
所在地	山形県東村山郡山辺町大字大寺1132-5		
自己評価作成日	平成24年 7月 26日	開設年月日	平成12年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康と安全に努めながら残存機能を有効に活用し、その人なりの生活が送れるように努めています。外出や会話、食事づくりに力を入れています。また、施設東側に畑があり、いろいろな野菜を育てています。コミュニケーションをとるのが苦手な方も、家族のような雰囲気の中で共に生活し、私たちスタッフのユーモアと笑顔そして、明るいパワーで支援することで、楽しく元気になっていただけたと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念「ゲストが恋人」とあるように利用者を「ゲスト」と呼び、利用者一人ひとりの自主性を大切にしながら生活の中に活かし、職員はそれらを発揮出来るような場面作りを工夫しながら出来ないことを手伝っています。県内で他にない6ユニットがあり、それぞれのユニット名(憩いの園、虹の園、光の園、桜の園、緑の園、調べの園)の特徴を活かした雰囲気の中で穏やかな毎日を過ごしています。敷地内にクリニックや老人保健施設が併設され、健康面でも安心に繋がっている事業所です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 24年 8月 23日	評価結果決定日	平成 24年 9月 11日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をつくりユニットの見えるところに掲げている。	利用者「ゲスト」を中心に、職員は何をするときもゆっくりと声がけして、何がしたいか望むことに気づき、提供しながら一緒に時間を過ごしている。地域にとけこみ、楽しさを共有出来るような関わりを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物は地域のスーパーを利用している。小学校の行事(運動会、学習発表会、廃品回収)大寺地区全体の防災訓練等に参加し、交流を図れるように努めている。	開設から12年の歴史と共に地域と積極的な交流をしており、特に小学校とは隣接している立地条件も加わり色々な行事に参加している。事業所を含めた法人主催の夏祭りや文化祭は地域から大勢の参加があり恒例となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のスーパーへの買い物を通して理解していただくよう努めている。文化祭時は見学会や小学生の訪問などを通して理解を得るように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催を行っている。大寺地区の民生委員にも参加していただき、ホームの活動等において助言をいただいている。	地域の各分野の代表に出席してもらい、事業所と互いの情報交換をする良い機会となっている。年1回は各ユニットに分かれて食事会を兼ねながら利用者とのふれあいをもち、地域の声を反映させたサービスの質向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受け入れや研修等の提出物の確認、運営推進会議にも参加していただいている。また、町からも行政等の報告など密にもらっている。	町の担当者とは、疑問に思ったことや困難事例など何でも相談出来る関係を作っている。2ヶ月に1度介護相談員の来訪があり、利用者との会話も弾んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	状況に合わせて、施設しないで過ごしていただいている。拘束をしないで、その人に合ったケアを考え工夫しながら行っている。	職員は学習会等を通して身体拘束の弊害について理解を深めている。利用者が不安や外出したくなる時間帯を見計らい、気分転換などの工夫をして敷地内の各事業所と連携を取りながら、自由で安全な暮らしが出来るように見守っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法については、学習会において職員全員で学んだ。虐待防止には十分に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用しているユニットより、情報を得るようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明を行いながらしている。疑問はその都度確認し、理解を得られるように努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談の窓口を設けている。また、苦情があった際は管理者、職員で話し合いをしっかりと行い、改善に努めている。	家族会があり、総会、食事会、奉仕活動等の参加を通して職員、家族同士の関わりも多くある。家族等とは何でも言ってもらえるような信頼関係に繋げ、意見、要望があった場合はすばやい対応を行っている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングや目標管理シートを利用して反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを有効的に活用し、一人ひとりが向上心を持って働けるよう努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会も多く設けられており、また内部の学習会においても学ぶ機会を設けている。	定期的に、内部や法人全体での学習会が設けられており、他事業所との交換研修にも出かけている。職員はユニット間の配置換えなどを経験することにより、どこのユニットでも対応出来るようなレベルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修や学びの場が多く持たれている。その研修などで知れた情報をまとめ、参考になっている。	県、村山ブロックグループホーム連絡協議会に参加し、情報交換している。交換研修では自分の事業所の長所を知るきっかけにもなり、職員の働く意欲に繋がっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し共感する姿勢を大切にし、コミュニケーションをはかり本人を知る事に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際して、本人同様に家族に対しても話を聞く機会をつくっている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人に対して必要な支援を見極め、当グループホームでの対応だけでなく、他のサービス利用も含めた対応も行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽を共にし、家族のようにお互い支え合いながら、教ををいただく関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出の機会を設け、また面会時には状況報告も行い、問題があれば相談し、一緒に解決していく努力をしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の支援、また家族を通してなじみの人や場所との関係が途切れないように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然に利用者同士が支えられ、支え合っている関係も生まれている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談にのり、利用が終了しても継続的な付き合いが持てるよう心がけている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのケアプランにセンター方式を取り入れ、困難な場合こそ本人の気持ちシートを記入することで思いや暮らし方の希望など把握するように努めている。	日頃の会話や何気なく言った本音の言葉を大切に聞き逃さないようにし、表情などから思いや希望を汲み取るようにしている。家族等をはじめその他の情報も参考にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、家族に対して利用者本人の生活歴を聞き取りし、入所後の生活に活かしている。入所後も回想法などを通してこれまでの暮らしなどを聞く機会をつくっている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの残存機能を見極め、体力アップ筋力保持のため、毎身体操や立ち上がり訓練などを楽しみながら行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本位の介護計画が作られている。本人、家族の意見も取り入れられるように聞く機会も設けて、職員が作成している。その後家族へも情報を提供している。	利用者のしたい事を一番に優先し、主治医、家族等、職員の意見を集約して、今出来ることを大切にしたい個別の介護計画を作成している。変化があった場合や、定期的な見直しがされている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきを大切に介護記録を記入している。各自の認知症の状況も記録し、現在の状況を把握できるよう工夫している。それを介護計画に活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の民生委員や消防の協力は得ている。小学校や地区の行事には進んで参加している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	系列の医院を受診している方が多いが、病状に応じて他の専門の医療機関の受診が必要になった時は、医師や家族と連携を取り、本人および家族の希望を大切にしている。	隣接する法人クリニックは、日頃の診察や定期的な健康診断、夜間の受け入れ等安心できる体制が整っている。他の必要な診察は家族の協力を得て、利用者の健康を皆で支えている。また、常時服用している薬の種類・効能、誤飲への危険性を勉強し知識を高めている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護職員がおり、利用者の健康状態を把握している。また敷地内に医療機関があり看護師とも、連携を図っている。訪問看護師が、週に一度訪問し、利用者の健康状態の把握を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、まめに病院関係者や家族と連携を取り情報交換や相談を行い利用者の状態把握に努めている。また早期退院に向けた取り組みを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	終期末の対応は行っていない。重度の利用者に対しては早期から医師や家族との話し合いの機会を持ち、今後の変化に備えて検討や整備を行っている。	終末期の過ごし方について家族等の思いを確認し、ぎりぎりまで事業所で過ごしてもらえるように支援している。家族同様に利用者を思う熱い気持ちと主治医との連携により、その人らしい生活を支えている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会を定期的に行い、マニュアルも作成されている。赤十字や看護師からも学んでいる。学ぶ機会が多いが緊急時は不安はある。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。地域の防災の協力も得ている。しかし、地震や水害は不安な面もある。	日中・夜間想定訓練では利用者も参加して、落ち着いて行動出来るように初動対応や備蓄・備品の見直し、職員の日頃からの心構えなど認識を新たにしている。地区の防災訓練に参加したり、有事の際の協力体制を築いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人ひとりが、人格を尊重することを心がけ、プライバシーを損ねない言葉掛けを行っている。プライバシーの事についても学習会で学んでいる。	これまでの生活歴から、利用者の得意とする事を上手に引き出し、毎日の暮らしに無理強いをせず組み込んでいる。時間を一人ひとりのペースに合わせ、細やかな気配りがされている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気持ちシートを利用し、思いや希望を話せる雰囲気づくりと、自己決定できるよう受容と傾聴し自ら口に出して頂けるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いやペースを大切に、利用者それぞれの希望に応じた支援ができるよう職員間の情報の共有とコミュニケーションをはかり希望に添えるようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが出来ない方へは、声掛け援助している。外出やイベント時などは化粧をしておしゃれを楽しんでいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力を活かし職員と共に調理を行っている。季節に応じた献立や、昔食べたなつかしい献立も楽しみながら行っている。手作り弁当を持つイベントも行っている。	各ユニット毎に希望メニューを決め、全員で調理し笑顔ある食卓を囲んでいる。郷土料理や旬のものから季節を感じたり、外食やおやつ作り等も楽しみの一つとなっている。また、こまめな水分補給や飴などで脱水症対策にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方やむくみのある方など、一人ひとりの状態に合わせて対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けの必要な方、援助の必要な方と一人ひとりの状態や力に応じて支援している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、毎朝の清拭で清潔感を感じ失禁の不快感の軽減から、トイレでの排泄ができています。	見守りやさりげない誘導、排泄環境を整え利用者が自分で出来る様になったうれしい声も聞かれる。職員間での報告や記録を徹底して行い、個別支援が行き届いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し、運動や水分補給を行うことで便秘予防に努めている。場合によっては腹部マッサージを行うことで自然排便につながっている方もいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	健康状態に合わせ、また一人ひとりの希望を聞き取りその方にあった支援を行っている。	好きな時間帯に入浴でき、自分好みのシャンプーやボディソープ等を準備し、自宅と変わらない生活をしている。また、思いや不安など1対1で本音が聞ける大切な場所でもある為、聞きだせる様な関係を作っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のほどよい運動と生活リハビリを行うことで、昼寝の軽減、また個別の関わりを充実させ夜間の良眠につながるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方のときにいただく説明書の薬の働きや注意事項、相互作用や副作用などに目を通し理解するとともに薬の変更があったときは申し送りをしっかり行い、職員一人ひとりが熟知できるよう対応していく。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり個性を活かし、役割をもって生活し生きがいがあるよう支援している。季節ごとのイベント外出やドライブでの気分転換を行っている。室内での景品つきゲームを開催し楽しんでいる。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望をかなえられるよう外出を多く取り入れている。家族や地域の友人と外出する方もおり、協力を得ながら支援している。	近所への散歩やスーパーへの買い物等の生活支援や四季を感じる遠出では、各ユニット毎ドライブ先を決め外に出る機会を多く設けている。出先では段差やトイレ設備の有無なども確認し計画を立てている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来ない利用者が多いため、お金の管理は職員が行っている。しかし、財布を持参している利用者は、買い物の際自分で支払いをする方もいるので見守りを行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら、友人へ手紙を書く方や電話をかける方へサポートしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の棚に季節の花を置くことで、季節を感じていただいたり、好きなビデオや好きな音楽をながし寛ぎの空間づくりを心がけている。利用者にあった温度調整も行っている。	共有空間は、料理の匂いが感じられる台所を中心に一人で寛げるスペースを設けたり、利用者の作品掲示などそれぞれの特徴の良さが雰囲気表れている。職員も生活環境の一部と考え心地よい空間を提案している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを並べて、個々にゆっくり寛いで過ごせる居場所を確保している。面会者にも利用していただいている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人、家族と相談し馴染みの家具やテレビなどを持ち込んでいただき、利用者が戸惑う事がないよう居心地良く過ごせるよう工夫している。	自分好みののれんをくぐり、使い慣れた物に囲まれて、過ごしやすい工夫がされてある。洗面台や居室、廊下の掃除等を皆で分担し自分の部屋への思いが感じられる。熱中症に気をつけ温度管理にも細心の注意がはらわれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、脱衣場、浴室など利用者の可動域を考え適宜な場所に手すりを設置しており自立した生活、事故のない生活がおくれるように工夫しながら支援している。また、足元に物を置かない配慮もしている。			